

令和 7 年度 ナラ枯れ被害の状況について

県内現況

- 本県における令和 7 年度のナラ枯れ被害量は 2,814m³（前年比 15%減）で、ピーク時（令和 3 年度）の約 30%に減少しました。ただし、依然として多くの市町村で被害が確認されており、警戒が必要な状況です。

年度	市町村数	被害材積 (m ³)	対前年比
R1	3	39	—
R2	12	2,831	▲ 7.159%
R3	15	9,373	▲ 231%
R4	19	3,789	△ 60%
R5	23	2,276	△ 40%
R6	25	3,326	▲ 46%
R7	23	2,814	△ 15%

市町村名	材積/m ³					
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
甲府市	2	26	53	196	326	467
富士吉田市	8	213	44	93	128	106
都留市	1	212	141	196	59	62
山梨市				20	36	6
大月市		5	5	32	216	775
韮崎市				20	55	32
南アルプス市			2	12	25	14
北杜市				2	86	100
甲斐市				1	23	7
笛吹市	8	45	111	196	124	112
上野原市		43	104	160	128	69
甲州市			173	217	600	247
中央市				4	18	12
市川三郷町				5	2	5
早川町	3	29	18	9	3	
身延町	548	1,801	408	32	27	2
南部町	1,205	2,108	189	38	7	11
富士川町			8	3	2	
道志村	56	1,162	676	605	592	290
西桂町		6	7			13
忍野村	25	193	160	63	69	119
山中湖村	704	2,898	1,573	282	539	234
鳴沢村	21	99	20	17	62	6
富士河口湖町	251	533	94	69	141	89
小菅村					19	
丹波山村					40	37
合計	2,831	9,373	3,789	2,276	3,326	2,814
被害市町村数	12	15	19	23	25	23

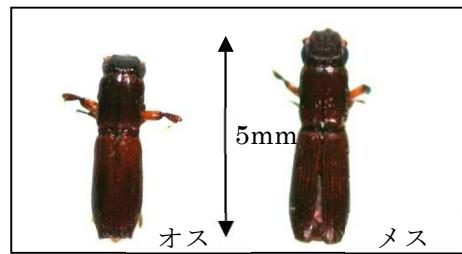
※昭和町は地域森林計画対象森林が存在しないため除外

ナラ枯れ被害について（参考）

- 「カシノナガキクイムシ」がナラ類やシイ・カシ類の幹に侵入して、病原菌であるナラ菌を持ち込み、樹木を枯死させる現象（ブナ科樹木萎凋病）。
- ナラ菌に感染しても枯損するものは2～5割であり、地域の森林を絶滅させるような被害が発生するものではないが、一度被害が発生するとその周辺へ拡大する。

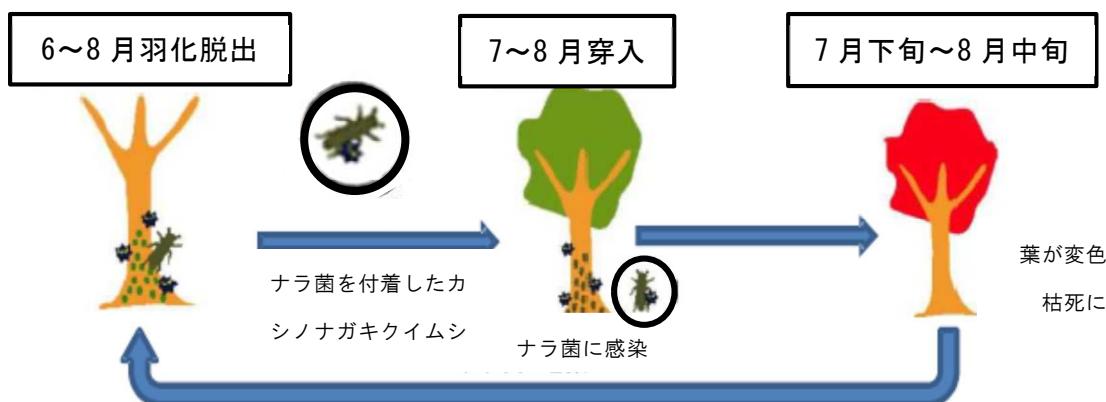


【葉が赤褐色になって枯死した被害木】



【カシノナガキクイムシ】

ナラ枯れのメカニズム



- カシノナガキクイムシの羽化・脱出が始まる時期（翌春の5～6月末）までに、伐倒くん蒸等による被害木の処理が必要。

ナラ枯れ被害の対策

伐倒くん蒸処理



立木くん蒸処理



粘着シート設置



破碎処理



被害木を伐倒、集積し、全體をシートで被覆密閉して薬剤でくん蒸する方法

被害木を伐倒せず、立木のまま樹幹に注入孔を開けて薬剤を注入する方法

シートの粘着面を被害木の樹幹に向けて貼り付け、内部の虫が羽化脱出する際に捕殺する方

被害木を破碎処理（チップ化）し、幼虫を物理的に殺虫する方法